

防災マニュアル

STEP1 日頃から準備しておくこと! ~いざという時のために~

- 1 非常時に備え、日頃から各建物に掲示してある学舎配置・避難経路図を確認し、避難経路はもとより非常ベル・消火器・避難器具・AED及び担架の場所を覚えておく。

スケジュールブック
「Chapter09 学舎配置図」
建物案内図
避難経路、避難器具参照

- 2 家族・友人と避難場所を決め、災害伝言ダイヤルを家族全員の携帯電話に登録しておく、使用方法を確認しておく。

災害伝言ダイヤル ☎171 (忘れてイナイ?)

Aさん…被災者 Bさん…Aさんの安否を心配しているその他地域の人

録音 Aさんが電話する 171+1+Aさん(被災者)の電話番号
再生 Bさんが電話する 171+2+Aさん(被災者)の電話番号

- 3 家庭では、家具の配置を工夫し、たんすや書棚等の転倒防止対策を済まし、食料、飲料水等の備蓄をしておく。

大学の安否確認の方法(Google classroom)を覚えておく。

大規模地震等発生時の大学の対応

- 4 大規模地震等の自然災害が発生した場合、Google classroomを活用して安否確認を行うので必ず回答する。

なお、授業期間中の場合は、再開のめどがたつまで臨時休講となる。

徒歩帰宅シミュレーションをしておこう! 徒歩帰宅の目安は半日で10km(2.5km/時)、自転車で30km(災害時10km/時)です。

自宅までの距離 km 途中危険な地域は 。
経路: 創造大 → → → → 自宅
自宅は海拔 m・津波避難ビル ・指定避難所

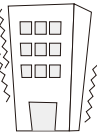

- 5 *災害発生時は、交通機関や道路は大混雑します。安全な場所や、大学にとどまる必要がある場合があります。本学では、帰宅困難者の避難所として、寝具や食料の備蓄品を用意しています。また豊橋駅周辺の「帰宅困難者等支援施設」は、「子ども未来館(こここ)」と「穂の国とよはし芸術劇場」がある。以上の事をネット(「豊橋市、避難所」)で検索しておこう。

東海地震注意情報、予知情報(警戒宣言)が発表されたら

- 6 大学にいて大災害が発生した時や東海地震注意情報が発表された場合は、授業や学校行事は直ちに打ち切り、また当日予定されている授業や学校行事等は中止又は延期とし再開のめどがたつまで臨時休講となる。教職員の指示に従って速やかに帰宅する。

なお登下校の場合も、あらかじめ決めておいた方法に従い速やかに帰宅するようにしてください。

大学内では「地震」と「火災」の対応の違いをしっかりと認識する!

地震発生⇒STEP2	火災発生⇒STEP3
<p>「出口を確認し、落下物に注意して身を守る」 本学は耐震構造で倒壊の恐れはありません。指示に従い基本的にグラウンドには避難しません。あわてて外へ逃げるとかえってガラスの落下等で命を落とすこともあります。</p> 	<p>初期消火後 『グラウンドへ避難する』</p> 
ドアは開けておく(避難口確保のため)	ドア、窓は閉める

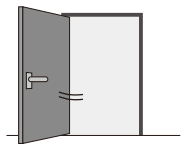
STEP2 大地震が起きたら

本学の緊急地震速報システムは震度4以上で作動し、下記のように放送が流れます。

「(チャイム音)あと、15秒で揺れます。予測震度(*6強)。身の安全を確保してください。落下物に注意してください。揺れが収まるまで身を守ってください。落ち着いて行動してください。』

1 非常出口を確認

- ・地震で扉がゆがみ開かなくなる前に近くのドア等を開ける。
- ・あわてて外に飛び出さない。



2 身の安全を確保

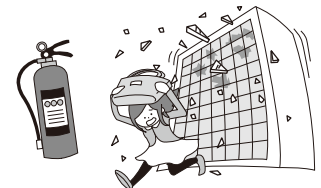
- ・落下物(黒板・照明・TVモニター・スピーカーなど)から身を守る。
- ・転倒物(ロッカー、本棚など)などから離れる。
- ・バッグや衣類等で頭を守る。
- ・丈夫な机やテーブル等の下に身を伏せ、態勢を安定させるために机の脚を押さえる。
- ・火を消す。(電気器具を使用している場合は電源コンセントを抜く。)
- ・窓際にいる人は、余裕があれば窓ガラスの飛散を防ぐためにブラインドやカーテンを開け、急いで窓際から離れる。余裕がなければ、すぐに窓際から離れる。

3 冷静に行動する

- ・大揺れは1分程度で収まるので周囲の状況をよく確認し、情報を入手してから行動する。
- ・周辺がパニックに陥りそうな時は「落ち着け」「机にもぐれ」など、大きな声でお互いに声をかけ合う。
- ・本学は耐震構造となっているため、倒壊の危険は少ない。よって揺れている途中であわてて外へ逃げることは、ガラスの落下物等でかえって危険である。
- ・グラウンドや構内では液状化現象にも注意を要する。

4 火災発生⇒みんなで初期消火⇒STEP3

5 大津波警報の発表⇒青陵中学校へ避難する。 整列・点呼方法(STEP3「図A」「図B」参照)



Case 1. エレベーターに乗っている場合

最寄の階のボタンを押し、停止した階で降りる。途中で停止してしまった場合は非常ボタンまたはインターホンで外部に救助を求め、脱出口からむやみに出ようとしない。

Case 2. 室外にいる場合

校舎や壁から離れ、落下物や転倒物に注意しながらグラウンドなど広い場所に避難する。その際、地面の亀裂や陥没などにも注意する。

Case 3. 車に乗っている場合

車を止めエンジンを切る。サイドブレーキを引き、キーは抜かない。



Case 4. 自宅や下宿で地震発生

上記にプラスして、

- + 戸外へ避難する際は足元の散乱物や頭上の落下物に注意し、素足では避難しない。
- + 復旧時の事故防止のため、ガスの元栓を開め、電気のブレーカーを切っておく。
- + 垂れ下がった電線には近づかない。
- + 海岸の近くにいる場合は津波の恐れがあるので、速やかに高台へ避難する。(津波避難ビル)

Case 5. 登下校中の場合(自宅へ戻るか大学へ向かうかは各自で判断する。)

近隣避難場所に着き状況が落ち着いたら、本人や友人などの安否情報を大学に知らせる。また、周囲に困っている人がいたら、手助けをする。

天災は忘れた頃にやってくる!

地震名称	発生年	最大震度	死者数	死因
熊本地震	2016	7	273	直接死 50+関連死 223(エコノミークラス症候群等)
東日本大震災	2011	7	15,897	溺死(水死)
阪神淡路大震災	1995	7	6,434	圧迫死
関東大震災	1923	6	105,000	焼死

STEP3 火災が起きたら

- ①速やかに周囲に知らせる。(非常ベルを押す)
- ②消火器、消火栓で初期消火する。
- ③天井に火が移り、初期消火が無理ならば、直ちに避難する。
- ④扉がある場合は閉めて逃げる。



▲ 火災時の避難方法

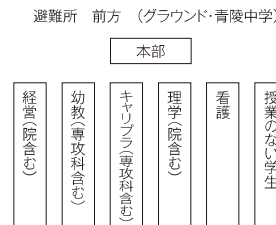
- ①普段から各教室の避難経路を確認しておく。
- ②D棟及び図書・情報センターには非常階段があるが、その他の棟は日常使っている階段や通路を使って避難する。
- ③基本的には、火元から反対方向へ移動して階段を使って1階へ逃げる。隣により安全な建物(棟)や通路がある場合はそちらへ移動してから1階へ逃げる。
- ④火災の避難場所は、グラウンドとなる。
- ⑤あわてて出口に殺到したりしない。避難ドアにつまずかないように注意すること。
- ⑥室内では壁づたい、廊下では中央を通るようにする。下階へは必ず階段を使用し、エレベーターは絶対に使用しない。
- ⑦火災が発生している場合は水で湿らせたハンカチなどで鼻と口を覆い、煙を吸い込まないように姿勢を低くして、出火元から遠ざかるように避難する。
- ⑧停電して暗い場合は非常灯を目印に避難する。
- ⑨負傷者や障害者を優先し、手助けしながら避難する。

▲ 避難所に着いたら 整列と点呼 ※津波時は青陵中学校グラウンド

- ①図Aのように学科ごとの位置で、図Bのように授業単位で各列5名ずつ整列して点呼をとる。
- ②その為には予め、以下のように教室で、一度事前に練習をしておくこと。
 - ・授業名簿で各列先頭の学生を決めておいて、横一列に並ぶ。
 - ・各列先頭の学生は、手を上げ、皆にわかりやすいように後ろを向く。
 - ・そこから各列学籍順に学生は5名並ぶ。いない学生は、空席にしておく。
 - ・点呼の終わった学生から、腰を下ろす。

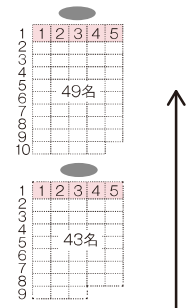
避難所での整列・点呼方法(授業クラスごと)

図A



図B

- ・先頭の学生をあらかじめ決定しておく
- ・点呼人数だけではなく、不明者がいる場合は、その氏名の報告が必要です。
- = 先頭の学生。先頭の学生は手を挙げ、後ろの学生の方を向いて整列させる。
- = 授業教員



■ 暴風警報等の発令・大地震及び交通スト等の場合の措置

1. 暴風警報、特別警報の発令及び解除

- 1) 愛知県東三河南部に暴風警報(暴風雪警報も含む)又は特別警報が発令された場合、面接(対面)授業等は、休講とする。
- 2) 愛知県東三河南部の暴風警報又は特別警報が解除された場合、面接(対面)授業等の取扱いは、次の通りとする。

状 況	授業等の実施
午前7時までに解除された場合	平常授業等を実施する。
午前11時までに解除された場合	午後1時以降の授業等を実施する。
午後4時までに解除された場合	午後6時以降の授業等を実施する。

- 3) 愛知県東三河南部以外の地域に居住する学生で、居住地域・通学経路に暴風警報、特別警報が発令されている場合は、面接(対面)授業等への出席を要さない。なお、その際は3日以内に教務課カウンターへ申し出て、事務手続きを行うこと。
- 4) 遠隔授業については、暴風警報発表等の有無にかかわらず、基本的に授業を実施する。次のような状況においては、受講生は出席を要さないため、教務課へ連絡し、事務手続きを行うこと。
 - ① 遠隔授業受講時に、受講場所の該当地域の自治体より「避難勧告」「避難指示」が出された場合
 - ② 遠隔授業受講時に、受講場所や通信機器などが何らかの障害を被っている場合

2. 大地震の場合

- 1) 大規模地震対策特別措置法に基づく「東海地震注意情報または警戒宣言」が発表された場合、もしくは大規模地震が発生した場合は授業等を休講とする。
- 2) 東海地震注意情報が発表された後、警戒宣言が発せられなかった場合は、翌日から授業等を実施する。
- 3) 警戒解除宣言が発せられた場合は、翌日から授業等を実施する。

3. 交通スト等の場合

JR東海、豊橋鉄道、名鉄のいずれかがストライキ又は自然災害等の影響で全面運休またはこれに近い状態となり、授業等を行うことが困難であると判断した場合は、暴風警報等の場合に準じて対応する。

[注意] 交通機関の事故等により遅刻又は欠席した場合は、出校後、直ちに該当する授業担当教員へ申し出ること。(遅延証明書が渡された場合は、それを添えること。)

4. その他

- 1) 本学以外での実習等の取扱いについては、実習等の実施学科・科の指示に従うこと。
- 2) 上記以外で、学生の安全を確保する必要があると考えられる事態が発生した場合は、学長の判断により、授業等の休講など必要な措置をとる場合がある。

■ 緊急時における大学からの情報発信

緊急時には、ユニバーサルバスポート、大学公式Webサイトにより学生のみなさんに情報を発信しますので、アクセスして確認してください。

※その他、別途Google classroomにより安否確認を実施します。

ユニバーサルバスポート



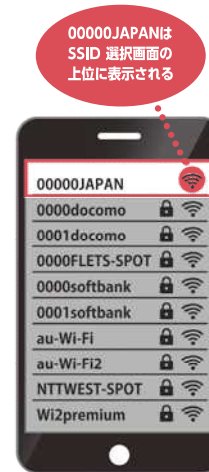
大学公式Webサイト



防災マニュアル



災害用統一SSID 00000JAPAN (ファイブゼロジャパン)について



災害発生時には、通信会社や自治体の公衆無線LANが開放され、SSID「00000JAPAN」という無線ネットワークに無料で接続できるようになります。IDやパスワードの入力(認証)は不要で、機器のWi-Fi設定において「00000JAPAN」ネットワークを選択するだけで利用可能です。携帯電話網が使用できない場合もメールやSNSでの安否確認やWebサイトによる災害情報の収集が可能になりますので、緊急時には活用してください。

Ⅰ AED 自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator)

本学は、AED保管施設です。保管場所は、**本館事務局**及び**D棟・E棟の1階**です。

▶ **AEDが必要な場合は?** (心臓停止後約3分で50%が死亡と言われています「カーラーの救命曲線」)
倒れていて ■意識がない ■普段通りの呼吸がない ■心停止が強く疑われる

▶ 救命処置の手順

① 傷病者に反応(意識)がなければ、② 勇気を出して大声で周囲に応援を求めます。

協力者がきたら
分業する
(一人の場合も)

・「あなたは**119番**で救急車を呼んでください!!」
・「あなたは**AED**を持って来てください!!」
・残って**心肺蘇生**を行う



呼吸の確認 普段通りの呼吸をしていない場合は、心肺蘇生法[**胸骨圧迫**と**人工呼吸**]を行う。
AEDが届いたら、すぐにAEDを使う準備を始めてください。

▶ AEDの使用手順

AEDはどの機種も同じ手順で使えるように設計され、音声メッセージに従うだけで、一般の人でも簡単に操作することができます。

- ① AEDを準備し傷病者の近くに置く
- ② AEDの電源を入れる
- ③ 電極パッドを貼り付ける
- ④ 心電図の解析(傷病者から離れる)
- ⑤ 電気ショック(電気ショック不要の場合、音声メッセージに従い心肺蘇生法を再開する)
- ⑥ 心肺蘇生法を再開
- ⑦ 心肺蘇生法とAEDの手順の繰り返し



心肺蘇生法を再開して2分(胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせを5サイクルほど)経つと、AEDは自動的に心電図の解析を再び始めます。音声メッセージに従いショックが必要であれば電気ショックを、不要であれば心肺蘇生を行います。AEDは約2分間おきに解析を実施します。





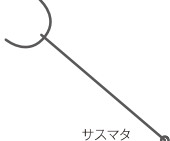
⑧ 救急隊に引き継ぐまでの対応

心肺蘇生とAEDの手順をあきらめず繰り返してください。もし、傷病者が息をしだしたり、動きだしたりしても、AEDの電極パッドは剥がさず、電源も入れたままで救急隊の到着を待ってください。救急隊が到着したら、傷病者の倒れていた状況、実施した応急手当(心肺蘇生法)、AEDによる電気ショックの回数を伝えてください。

▶ 救急隊に引継



【緊急用器具等設置場所】

<p>■ AED+ハンディ担架(3箇所)</p>  <p>AED</p>	<p>本館事務局 (イージーレスキュー)</p>  <p>イージーレスキュー</p> <p>・D棟1階(ソフト担架+車いす) ・E棟1階(ソフト担架)</p>  <p>ソフト担架</p>
<p>■ 担架(2箇所)</p>	<p>・健康相談センター(D棟1階) ・体育文化ホール1階(ミーティングコーナー)</p>  <p>担架</p>
<p>■ 階段タイプ 車いす</p>	<p>図書館1階</p>  <p>イーバックチェアー</p>
<p>■ サスマタ (2本)</p>	<p>警備員控室</p>  <p>サスマタ</p>